



東北誘致

一関で測定器の 研究者国際会議

20日から3日間

本県の北上山地(北上高地)への誘致実現を目指す国際リニアコライダー(ILC)計画に関し、測定器「ILD」の研究チームによる国際会議が20、22日、一関市大手町の一関文化センターを主会場に開かれる。国内外の研究者約70人が集い、測定器の性能の向上やコスト面などについて具体的に議論する。

会議では測定器技術の開発状況やコンピューターシ

ミュレーションによる性能評価などの研究内容の発表や意見交換を行う。

20、21日は市や県ILC推進協議会など地元関係者と研究者の懇親会が開かれるほか、県や市、同協議会などが連携し、外国人研究者への支援や本県のPRを行う。

同様の国際会議の本県開催は2014年の奥州市以来2度目。現地実行委員長で東北大学院理学研究科の佐貫智行准教授(素粒子物理学)は「建設候補地の開催により、外国人研究者に現地の雰囲気を実感してもらえ、地元にとっても研究者と接することで、誘致実現に向けてプラスになるだろう」と強調する。